

# 人口減少・少子化対策に係る提言書

令和6年10月15日

宇部市議会  
人口減少・少子化対策調査特別委員会





## 目 次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| はじめに                    | 1  |
| 1 活動経過                  | 3  |
| 2 本委員会のテーマ設定            | 6  |
| 3 宇部市の概況                | 7  |
| ・人口動態                   |    |
| ・移住・定住                  |    |
| ・結婚                     |    |
| ・雇用                     |    |
| ・産業                     |    |
| 4 提言                    | 18 |
| 施策1 移住・定住               |    |
| ・宇部市ラブラブ住民票             |    |
| ・政府機関の地方への移転・分散化を国に要望   |    |
| ・ノスタルジック音楽とアーバンスポーツ推進事業 |    |
| 施策2 結婚                  |    |
| ・出会いの場創出事業              |    |
| ・結婚と出生数増加対策             |    |
| ・結婚新生活支援事業              |    |
| 施策3 雇用・産業               |    |
| ・企業誘致のための情報収集           |    |
| ・若者の宇部市内での再就職支援事業       |    |
| ・若者の転職支援に向けた大学等との連携事業   |    |
| ・企業誘致のための新たな操業用地の準備     |    |
| ・成長産業推進みらいプロジェクト        |    |
| 施策4 共通                  |    |
| ・プレミアム婚姻届               |    |
| ・東京事務所の設置               |    |

|                              |    |
|------------------------------|----|
| おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 33 |
|------------------------------|----|

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ | 36 |
|----------------------------|----|

- ・人口減少・少子化対策調査特別委員会委員名簿

- ・視察報告

- 5月22日 プレミアム婚姻届（東京都立川市）

- 5月23日 柏の葉国際キャンパスタウン構想（千葉県柏市）

- 5月23日 東京事務所の設置（下関市東京事務所）

- 5月24日 ジャズのまちづくり（栃木県宇都宮市）

## はじめに

本市の人口は 2005 年 4 月の 17 万 9,833 人から 2024 年 4 月の 15 万 7,508 人へと、この 20 年間で 2 万人以上減少しました。毎年 1,000 人以上が減少していることとなります。特に近年では本市への移住者は増えているものの、それ以上の出生数の減少と自然減、転出者が増えているのが現状です。

この非常事態を重く受け止め、2023 年 6 月、宇部市議会としての対策を提言としてまとめることを目的に「人口減少・少子化対策調査特別委員会」を設置しました。

本特別委員会では、本市の人口減少及び少子化に歯止めをかけるとともに人口減少社会に対応していくための施策を 2 年間の期限で調査・検討し、行政の維持と市民生活の向上を目的に提言します。

2008 年をピークに日本は人口減少社会になりました。

2014 年 5 月、民間の政策提言機関「日本創成会議」が「ストップ少子化・地方元気戦略」において少子化対策とともに出生率改善による地方活性化を提案しました。

その中で若者の大都市への流出が地方の人口減少の要因になっており、東京一極集中に歯止めをかけることが提案されています。また、人口の再生産力を示す 20～39 歳の女性人口が 50%以下に減少する市町村が 896 地域もあることが公表され消滅可能性都市が大きな話題になりました。

この提言を受け、国も 2014 年 12 月にまち・ひと・しごと創生総合戦略を閣議決定し、東京一極集中の是正、若い世代の就労、結婚、子育ての希望の実現、地域の特性に即した地域課題の解決に取り組む重点政策を開始しました。

国は 2023 年から、次元の異なる少子化対策として、2030 年初頭までに国の予算の倍増を目指す方針を表明し、山口県議会も少子化・人材育成確保対策特別委員会を設置しました。

2014 年以降、様々な対応策がとられましたが、早期の成果は期待できません。

10 年間で更に人口減少と少子化が進み、2024 年に民間の有識者グループ「人口戦略会議」は消滅可能性がある 744 の自治体名を公表しました。

本市は該当しませんが、減少している自治体であることには変わりありません。

地方の人口減少問題は、主に子育て支援対策で取り組まれてきましたが、この対策だけでは十分な解決とはなりませんでした。

国内人口を 8,000 万人で減少を食い止めようとすれば 2060 年までに出生率を国が発表した 2.07 以上にする必要があります。

そのような中、2024 年 6 月 5 日に厚生労働省が発表した 2023 年の人口動態統計は、合計特殊出生率が 1.20 と過去最低を更新し、東京は 0.99 で 1 を割り、出生数は 72 万 7,277 人で前年比 4 万 3,482 人減という驚くべき内容でした。

これを受けて政府は「少子化の進行は危機的状況で残された時間は少なく 2030 年代に入る前の 6 年間でラストチャンス」とコメントし、「昨年末のこども未来戦略に基づき若い世代の所得を増やすこと」、「社会全体の構造や意識を変えること」、「すべての子供、子育て世帯をライフステージに応じ、切れ目なく応援すること」の 3 点の政策を示しました。

本特別委員会では、政府と同じ問題意識を持ち、市民生活に一番近い基礎自治体としての対策を具体的に提言し、本市にできることで、実行して欲しいことを主眼に 2023 年 6 月から 1 年以上にわたり、調査・検討してきました。

市民にこの提言がひとつでも実行されることで、「何かが変わった」と実感していただけることを願い、以下、本特別委員会としての提言を記します。

人口減少・少子化対策調査特別委員会  
委員長 笠井 泰孝

## 1 活動経過

|                   |            |
|-------------------|------------|
| 第1回会議（2023年6月19日） |            |
| 協議内容              | 1 正副委員長の互選 |

|                   |                                                   |
|-------------------|---------------------------------------------------|
| 第2回会議（2023年7月26日） |                                                   |
| 協議内容              | 1 「人口減少・少子化対策の課題」・「特別委員会のテーマ」について<br>2 今後の進め方について |

|                  |                                   |
|------------------|-----------------------------------|
| 第3回会議（2023年8月7日） |                                   |
| 協議内容             | 1 委員会で取り上げる項目について<br>2 今後の進め方について |

|                   |                                                                                                         |
|-------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第4回会議（2023年8月17日） |                                                                                                         |
| 協議内容              | 1 本市の人口減少・少子化対策に係る施策の進捗状況について（執行部のヒアリング）<br>・結婚に関する施策<br>・移住に関する施策<br>・雇用（成長産業推進）に関する施策<br>2 今後の進め方について |

|                   |                                                                               |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 第5回会議（2023年9月21日） |                                                                               |
| 協議内容              | 1 本市の人口減少・少子化対策に係る施策の進捗状況について（執行部のヒアリング）<br>・雇用（企業立地推進）に関する施策<br>2 今後の進め方について |

|                    |                                                                 |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 第6回会議（2023年10月24日） |                                                                 |
| 協議内容               | 1 提案内容について（提出された提案内容について各委員が説明）<br>・移住・定住<br>・結婚<br>2 視察候補地について |

| 第7回会議（2023年11月10日） |                                                                                                                 |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 協議内容               | 1 提案内容について（提出された提案内容について各委員が説明） <ul style="list-style-type: none"> <li>・雇用</li> <li>・その他</li> </ul> 2 視察候補地について |

| 第8回会議（2023年12月22日） |                    |
|--------------------|--------------------|
| 協議内容               | 1 提言書作成に向けた提案内容の検討 |

| 第9回会議（2024年1月22日） |                    |
|-------------------|--------------------|
| 協議内容              | 1 提言書作成に向けた提案内容の検討 |

| 第10回会議（2024年2月28日） |                                                                               |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 協議内容               | 1 提言の骨子案について 2 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察先について</li> </ul> |

| 第11回会議（2024年3月21日） |                                                                               |
|--------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 協議内容               | 1 提言の骨子案について 2 その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察先について</li> </ul> |

| 第12回会議（2024年4月11日） |                                                                                  |
|--------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| 協議内容               | 1 行政視察について <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察先</li> <li>・調査内容</li> </ul> |

| 先進地視察（2024年5月22日～5月24日） |                                                                                                                                                 |
|-------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 視察内容                    | 1 プレミアム婚姻届（東京都立川市） 2 柏の葉国際キャンパスタウン構想（千葉県柏市） 3 東京事務所の設置（下関市東京事務所（東京都千代田区）） 4 ジャズのまちづくり（栃木県宇都宮市） <p style="text-align: right;">※視察報告書は巻末資料を参照</p> |

|                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 第13回会議（2024年6月27日） |                       |
| 協議内容               | 1 提言書（案）について<br>2 その他 |

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 第14回会議（2024年7月11日） |              |
| 協議内容               | 1 提言書（案）について |

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 第15回会議（2024年7月23日） |              |
| 協議内容               | 1 提言書（案）について |

|                   |              |
|-------------------|--------------|
| 第16回会議（2024年8月5日） |              |
| 協議内容              | 1 提言書（案）について |

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 第17回会議（2024年8月14日） |              |
| 協議内容               | 1 提言書（案）について |

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 第18回会議（2024年8月21日） |              |
| 協議内容               | 1 提言書（案）について |

|                   |              |
|-------------------|--------------|
| 第19回会議（2024年9月3日） |              |
| 協議内容              | 1 提言書（案）について |

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 第20回会議（2024年9月12日） |              |
| 協議内容               | 1 提言書（案）について |

|                    |              |
|--------------------|--------------|
| 第21回会議（2024年9月27日） |              |
| 協議内容               | 1 提言書（案）について |

## 2 本委員会のテーマ設定

本委員会では、調査・検討を始めるに当たり、委員の間で「人口減少・少子化対策の課題」について意見交換を行った。

意見は多岐にわたり、「結婚」、「出産・子育て」、「教育」、「健康」、「雇用」、「産業」、「移住・定住」、「衛生」、「都市計画」、「行政」、「その他」の11分野に分類された。

協議の中で、本委員会の期限は2年間であること、提言内容を2025年度当初予算に生かしてもらいたいとの思いから、調査・検討するテーマを絞ることとした。

選定基準は「宇部市がさらに推進していくべき分野」とし、最終的に「移住・定住」、「結婚」、「雇用・産業」の3つのテーマで、調査・検討を進めることになった。



### 3 宇部市における概況

#### テーマ：人口動態

##### 【現状】

2024 年 4 月 1 日における本市の総人口は 157,508 人で、男性が 75,315 人、女性が 82,193 人となっている。そのうち 65 歳以上の高齢者は 33.9%をしめ、人口の 3 人に 1 人が 65 歳以上で高齢者(65 歳以上)と生産年齢人口(15～64 歳)の比率は、1 対 1.6 となっている。15～64 歳の年代 1.6 人が 1 人の 65 歳以上の高齢者を支える社会となっている。令和 5 年版高齢社会白書によると全国平均では比率は 1 対 2.0 となっている。

##### 人口動態の状況

2010 年に一時的な社会増があったものの、総人口は減少し続けており、2014 年以降、毎年 1,000 人以上の人口減少となっている。年々出生数と死亡数の乖離が大きくなっており、自然減が拡大傾向にある。

##### 出生の状況

出生数は、2008 年から 2015 年までは、1,300～1,400 人前後で推移していたが、さらに減少を続け、2019 年には 1,100 人を下回った。出生率は、2010 年以降、減少傾向となっている。合計特殊出生率は、2014 年以降、山口県平均を下回って推移していたが、2021 年には県平均に並んだものの、2022 年時点で 1.41 であるため、第 2 期「宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の目標値 1.65 はクリアしていない。

##### 死亡の状況

高齢化に伴い、死亡者数は年々増加し、2012 年に 2,000 人を超えた。死亡率も少しずつ上昇しており、近年 13.0%に近づいている。平均寿命は、男女ともに上昇傾向にあり、本市では男性が 80.5 歳、女性が 86.9 歳で山口県の平均寿命と同じになっている。

山口県人口移動統計調査によると、本市の死亡者数は、2019 年 2,103 人、2020 年 2,122 人、2021 年 2,200 人、2022 年 2,393 人、2023 年 2,521 人と増加している。

## 婚姻の状況

本市における過去 10 年間の婚姻届の受理件数は、2014 年度の 804 件から減少傾向にあり、2023 年度は 538 件であった。特に、2021 年度から 2022 年度は 1 年間で 103 件も減少している。

宇部市の婚姻届受理件数（窓口受理分）

| 年度 | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 2020 | 2021 | 2022 | 2023 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 件数 | 804  | 799  | 775  | 725  | 680  | 709  | 654  | 652  | 549  | 538  |

戸籍事件表より筆者作成

## 【課題】

### 出生の状況に対して

合計特殊出生率が 2.07 で現在の人口が維持できると言われている中、本市では 2022 年時点で 1.41 であるため、このままの状態では少子化は進行し、人口は減少していくこととなる。

20 歳～39 歳の女性人口は 2015 年～2045 年にかけて、約 30%減少する見込みであり、少子化が進むことが予想される。

山口県の第 1 子出生時の女性の年齢をみると、上昇傾向にあり、2015 年で 29.1 歳となっている。さらに晩産化が進むことで、1 人あたりが産む子どもの人数も減少していくことが懸念される。

### 死亡の状況に対して

人口減少が続く中でも、平均寿命の延伸等により、高齢者の人口は一定期間増加し、高齢化率の上昇に拍車がかかると考えられる。高齢化率が上がれば、将来、死亡者数が高い水準で推移（人口減が加速）することが懸念される。

### 婚姻の状況に対して

本市の平均初婚年齢は、上昇傾向がみられ、晩婚化が進行していると言える。晩婚化の進行が晩産化につながり、1 人あたりが産む子どもの人数が減少していくことが懸念される。

## まとめ

これらの社会的変化に対応するため、市民が生涯、健康的な生活を送り、宇部市に住み続けることができるまちづくりが求められる。宇部市で育った若者が、宇部市に就職でき、結婚し子育てしやすいようにしていく。都会から自然が豊かな宇部市に移住しようとする人を迎えやすい施策を用意することが必要であろう。

## テーマ：移住・定住

### 【現状】

本市の人口の社会動態は、2018 年に 558 人の減少であったものが、2023 年には 335 人の減少となっており、減少数が縮小している。

社会動態の特徴は、出産・子育て世代の転出が見られ、特に男性では 20 代前半、女性では 10 代後半から 20 代半ばに転出が多い傾向がある。また、高等学校、大学、大学院卒業時の転出が多いのも特徴である。

男性では、20、21 歳にかけて大学生のキャンパス移行等に伴う転入が顕著にみられるものの、上記のように高等学校、大学、大学院卒業時にはそれ以上の転出超過が起きている。

### 【宇部市の取組】

移住定住施策として、移住・定住サポートセンターの運営、移住体験ツアーやお試し居住等の実施、結婚定住応援イベント等の実施、移住フェア・セミナーへの出展等による情報発信やPRの実施、移住希望者への各種助成、地域おこし協力隊の活動推進が行われている。

その結果、2023 年度の就学と転勤が理由の人を除いた市内移住者は 1,249 人となり、県内で唯一 1,000 人を超えている。

交流人口の増加に向けては、フィルムコミッションの支援、DMOによる観光まちづくり、観光プロモーションの推進、クルーズ船の誘致などが行われている。

その結果、交流人口の指標となる観光客数は、2014 年度の 107 万人から 2019 年度では 180 万人となっている。しかし、コロナ禍で、一旦 100 万人台に落ち込んだものの、2022 年度は 143 万人に回復している。

関係人口の創出に向けては、シティプロモーションの推進、広報活動の充実、フィルムコミッションの支援、ふるさとワーキングホリデー等の実施、ふるさと納税の推進などが行われている。

## 【課題】

若者の転出、出産・子育て世代の転出は、労働力人口の減少だけでなく、出生数の低下により、さらなる少子化を引き起こすことが懸念される。しかし本市では、社会動態の減少幅が縮小したものの、減少は続いている。そのため、移住定住施策のさらなる充実が必要である。

本市では高等学校、大学、大学院卒業時の転出が多く、これらの人々とつながり続ける取組も必要である。その対策として、関係人口が注目されている。

関係人口とは、定住人口でも交流人口でもない、その中間の人口、また、総務省関係人口ポータルサイトには『「関係人口」とは、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域と多様に関わる人々を指す言葉です。』と記されており、関係人口創出の重要性が高まっている。

関係人口の創出の取組は近年全国で重要視されている。本市での成果も未知数である。本市においてもこれまで取り組んでいるが、今後も新たな取組が常に必要である。

卒業時の転出が多い、大学生・短期大学生・高等専門学校生への進路調査アンケートの結果では、卒業後に就職を予定している学生が、本市を就職先の地域に選ばなかった理由として「娯楽施設が少なく、余暇が充実しそうにないから」という回答が最も多い。したがって、娯楽を楽しめたり、余暇を充実したりできる施策が求められる。

## テーマ：結婚

### 【現状】

内閣府男女共同参画局「令和3年度 人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査」によると、女性の結婚願望については、「結婚意思あり」は20代で64.6%、30代で46.4%であり、40代では「結婚意思あり」が31.7%、「結婚意思なし」が31.4%とほぼ同程度である。

男性では、「結婚意思あり」は20代で54.4%、30代で46.4%、40代で36.0%である。

独身の女性が積極的に結婚したいと思わない理由について、「当てはまる」とした割合が最も高いものは、「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」が37.5%、次に「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」が35.7%、「結婚という形式に拘る必要性を感じないから」が30.8%である。

独身の男性が積極的に結婚したいと思わない理由については、「当てはまる」とした割合が最も高いものは、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」が24.7%で、経済力を理由とする意見が多く、次に「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」が22.6%、「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」が22.2%である。

独身者（結婚経験なし）の「結婚意思あり」割合は、20代では女性65%、男性54%、30代では男女ともに46%である。

### 【宇部市の取組】

本市では、25歳～39歳を対象とした結婚定住応援イベントを2022年度に4回、2023年度に3回実施しており、2024年度も3回実施予定である。

これまでの実施結果は2022年度は4回で、118人（男性64人、女性54人）の参加者があり、17組のカップルが成立している。2023年度は3回で74人（男性42人、女性32人）の参加者があり、10組のカップルが成立している。

### 【課題】

結婚したいのに相手に出会えない、出会う機会がない人に対して、いかに出会いの機会（きっかけ）を増やすかが重要である。

結婚して新生活をスタートする若い世帯を対象に経済的支援が必要なケースがある。

## テーマ：雇用

### 【現状】

経済センサスのデータによると、市内の官公庁を除いた事業所は、合併後の2006年7,245社から増加し、2009年7,424社をピークに減少傾向にある。直近の2021年の調査では6,336社となり、12年間で1,088社（約15%）減少した。

従業員数は、2006年の76,335人から2009年80,069人に増加したものの、以降は減少傾向にある。ピークであった2009年から2021年までの12年間で7,541人（約10%）の減となっているが、2012年以降は2016年を除き、72,500人前後で推移している。

宇部市内の事業所及び従業員数（公務を除く）

|        | 2006年  | 2009年  | 2012年  | 2014年  | 2016年  | 2021年  |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 事業所（社） | 7,245  | 7,424  | 6,821  | 6,940  | 6,646  | 6,336  |
| 従業員（人） | 76,335 | 80,069 | 72,608 | 72,730 | 69,990 | 72,528 |

経済センサスより筆者作成

厚生労働省山口労働局が発表する新規学卒者の毎年3月末における求人・求職・就職内定状況のデータによると、県内の高校卒業者に対する状況は、卒業者に対して県内の求人数が上回っており、雇用の場は確保されている状況にある。

県内の高校卒業者に対する求人状況の推移

|         | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | 2021  | 2022  | 2023  |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 求人（人）   | 4,469 | 4,975 | 5,429 | 5,804 | 6,660 | 7,125 | 5,570 | 5,589 | 6,310 | 6,512 |
| 求職者（人）  | 3,133 | 3,221 | 3,181 | 3,066 | 3,162 | 3,129 | 2,867 | 2,579 | 2,503 | 2,396 |
| 求人倍率（%） | 1.43  | 1.54  | 1.71  | 1.89  | 2.11  | 2.28  | 1.94  | 2.17  | 2.52  | 2.72  |

山口労働局各年度3月末における「新規学卒者の求人・求職・就職内定状況」より筆者作成

一方、大学等（大学、短大、高等専門学校、専修学校）の卒業者の就職内定状況は概ね94%から97%で推移している。

県内の大卒等の就職内定状況の推移

|          | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | 2021  | 2022  | 2023  |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 就職希望者（人） | 3,869 | 3,942 | 4,073 | 4,113 | 4,288 | 4,244 | 3,986 | 4,104 | 4,291 | 4,316 |
| 就職内定者（人） | 3,622 | 3,739 | 3,900 | 3,915 | 4,142 | 4,062 | 3,748 | 3,955 | 4,165 | 4,135 |
| 就職内定率（%） | 93.6  | 94.9  | 95.8  | 95.2  | 96.6  | 95.7  | 94.0  | 96.4  | 97.1  | 95.8  |

山口労働局各年度3月末における「新規学卒者の求人・求職・就職内定状況」より筆者作成

県内の新卒者の県内就職率の推移をみると、高校、短大の卒業者は概ね80%

以上で上昇傾向にあるが、大学、高等専門学校の卒業者は 30%を下回り、近年は下降傾向にある。

県内の新卒者の県内就職率の推移

|    | 2014  | 2015  | 2016  | 2017  | 2018  | 2019  | 2020  | 2021  | 2022  | 2023  |
|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 高校 | 81.9% | 80.6% | 79.5% | 80.5% | 82.3% | 83.0% | 83.1% | 84.2% | 84.6% | 83.8% |
| 大学 | 29.1% | 28.7% | 28.5% | 26.7% | 28.5% | 27.2% | 29.6% | 30.1% | 27.2% | 24.5% |
| 短大 | 79.8% | 78.5% | 82.1% | 84.3% | 81.0% | 81.3% | 88.5% | 86.8% | 85.6% | 85.6% |
| 高専 | 26.9% | 26.5% | 24.0% | 28.7% | 24.0% | 23.5% | 18.5% | 19.1% | 22.4% | 18.3% |
| 専修 | 77.8% | 78.4% | 80.3% | 78.3% | 78.7% | 78.7% | 80.6% | 78.6% | 75.9% | 74.8% |

山口労働局各年度3月末における「新規学卒者の求人・求職・就職内定状況」、「労働市場年報」より筆者作成

また、2021 年に本市が市内の学校に通う高校生・大学生等を対象に実施した学生アンケート調査（ウェブアンケート）によると、就職先を選ぶ際の優先度は、「会社がある場所」に対して「働きたい仕事の内容」が高く、高校生は 3.5 倍（2015 年 2.2 倍）、大学生では 2.2 倍（2015 年 2.3 倍）となっている。

就職先を決める際に重要だと思うこと

|                     | 高校生    |        | 大学生    |        |
|---------------------|--------|--------|--------|--------|
|                     | 2015 年 | 2021 年 | 2015 年 | 2021 年 |
| 会社がある場所             | 27.7%  | 18.2%  | 27.6%  | 30.0%  |
| 働きたい仕事の内容           | 60.8%  | 63.6%  | 63.8%  | 66.2%  |
| 就職できれば、仕事内容も場所も関係ない | 6.8%   | 9.1%   | 5.6%   | 1.9%   |
| その他                 | 2.1%   | 6.1%   | 3.0%   | 1.4%   |
| 無回答                 | 2.7%   | 3.0%   | 0.2%   | 0.5%   |

※大学生等：大学、短大、高専の学生

「学生アンケート調査」（2021 年宇部市実施）より筆者作成

さらにこの調査では、「宇部市内であなたが希望している仕事ができるとなった場合、宇部市に住みたいと思うか」を尋ねており、その結果は、高校生の 90.9%（2015 年 68.7%）、大学生では 60.1%（2015 年 45.7%）が宇部市に住みたいと回答しているにも関わらず、大学生の県内就職率は 30%を下回っている。

宇部市内であなたが希望している仕事ができとなった場合、宇部市に住みたいと思いますか

|        | 高校生    |        | 大学生    |        |
|--------|--------|--------|--------|--------|
|        | 2015 年 | 2021 年 | 2015 年 | 2021 年 |
| 住みたい   | 68.7%  | 90.9%  | 45.7%  | 60.1%  |
| 住みたくない | 16.8%  | 3.0%   | 48.1%  | 34.7%  |
| 無回答    | 14.6%  | 6.1%   | 6.3%   | 5.2%   |

※大学生等：大学、短大、高専の学生

「学生アンケート調査」（2021 年宇部市実施）より筆者作成

山口労働局の 2023 年度労働市場年報によると、2023 年度の新規学卒者を除く年齢別新規求職申込件数（常用）をみると、新規学卒で就職した世代と思われる 20 代の登録者が多く、新たな就職先を求め、活動していることが想定される。

年齢別新規求職申込件数

| 年齢          | 19 歳以下  | 20～24 歳 | 25～29 歳 | 30～34 歳 | 35～39 歳 | 40～44 歳 |
|-------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 新規求職申込件数(件) | 760     | 4,565   | 5,010   | 4,083   | 4,442   | 4,793   |
| 年齢          | 45～49 歳 | 50～54 歳 | 55～59 歳 | 60～64 歳 | 65 歳以上  |         |
| 新規求職申込件数(件) | 5,356   | 5,142   | 4,316   | 4,974   | 9,428   |         |

山口労働局「令和 4 年度労働市場年報」より筆者作成

また、市内には、宇部テクノパークをはじめとする産業団地が 8 か所あるが、2024 年 8 月末時点では、空き区画は 3 団地に 8 区画となっており、残りわずかである。

## 【宇部市の取組】

雇用創出として、産業団地への企業誘致、オフィス誘致、創業支援に取り組んでいる。

産業団地への企業誘致の取組では、企業立地フェア等へのブース出展、企業誘致可能性調査の実施、山口県企業誘致推進連絡協議会との連携がある。

2023 年 8 月末時点で、産業団地には 44 社が進出し、従業員数は 1,200 人、うち市内在住者は 752 人となっている。

オフィス誘致の取組では、イベントへのブース出展、企業誘致可能性調査の実施、山口県企業誘致推進連絡協議会サテライトオフィス部会との連携がある。

これらのオフィス誘致の取組により、2020 年度から 2022 年度の間に 11 社が進出し、47 人の雇用創出につながっている。

創業支援では、うべ起業サポートネットワークの取組があり、2018 年度から 2022 年度まで、累計で 139 件の創業、115 人の雇用創出につながっている。

採用支援として、人材確保支援、採用戦略セミナー、企業の魅力発信に取り組んでいる。

人材確保支援の取組では人材確保支援事業費補助金、採用戦略セミナーの取組では市内中小企業を対象にセミナーを開催、企業の魅力発信の取組ではうべ企業情報ナビがある。

人材確保支援事業費補助金を活用した採用は、2018 年度から 2022 年度までで累計 139 人で、採用戦略セミナーは 2022 年度、2023 年度の 2 回の開催で、経営者層を中心に 193 人が参加している。

求職者に対する支援として、多様な働き方確保支援センター（JOBSTA）の運営に取り組み、2018 年度から 2022 年度までの間に、累計で 450 人の就労支援を行い、就職件数は 176 件となっている。

## 【課題】

高校卒業予定者に対する有効求人倍率は近年、2 倍以上あり（求人は多い）、県内就職率は比較的高い状況にあるが、県内の大学、高専を卒業した学生の県内就職率は低い。

就職先を選ぶ際は、「働きたい仕事」が最優先とのアンケート結果があることから、働くところがあれば本市に住みたいと思っている学生はいるが、若者が魅力あると感じる働く場所がなく、これらの学生の受入れ先がない。

一度就職した 20 代の若者の離職者が多く、再就職情報を届ける仕組みづくりが必要。

学校が就職情報を学生に提供し、支援するのは在学時のみである。

産業団地については、新規で本市に企業誘致をしたくても、受け入れ可能な用地が少ない。

新たな産業団地の計画から造成、分譲開始までには、数年の期間と多額の費用が必要となる。

## テーマ：産業

### 【現状】

若者の人口そのものが減少している中、進学や就職で市外へ転出している者は多い。流出を止めることができない要因の一つとして、若者にとっての刺激や魅力を感じさせるものが少ないことがある。

特に働く場が重要であり、若者が活躍でき挑戦したくなる魅力のある就労の場や自身の能力が発揮できる雇用の場が少ない。

一例としては、今やコロナ禍を経て、在宅、コワーキングスペース、ワーケーションなど業務スタイルが変化しているなかで、次の表からも読み取れるように製造業や建設業、小売業等を中心とした本市の産業界においては業種の特性上やむを得ないかもしれないが、仕事はオフィスでするものであるという考え方が、本市においては根強く残っているように見受けられる。

また、若者にとって良い情報もうまく届いていないという現状もあることから、様々な視点から首都圏とのギャップを感じさせている。

産業別（大分類・公務を除く）事業所及び従業者数

| 産 業           | 事業所(社) | 従事者(人) | 産 業             | 事業所(社) | 従事者(人) |
|---------------|--------|--------|-----------------|--------|--------|
| 農 林 漁 業       | 27     | 280    | 不動産・物品賃貸業       | 294    | 1,310  |
| 鉱・採石・砂利採取業    | 1      | 1      | 学術研究、専門・技術サービス業 | 261    | 1,996  |
| 建 設 業         | 693    | 5,313  | 宿泊・飲食サービス業      | 705    | 5,591  |
| 製 造 業         | 335    | 10,896 | 生活関連サービス・娯楽業    | 642    | 2,426  |
| 電気・ガス・熱供給・水道業 | 12     | 424    | 教育・学習支援業        | 246    | 4,437  |
| 情 報 数 信 楽     | 54     | 875    | 医 療 ・ 福 祉       | 627    | 14,873 |
| 運 輸 ・ 郵 便 業   | 146    | 4,068  | 複 合 サ ー ビ ス 業   | 44     | 705    |
| 卸 売 ・ 小 売 業   | 1,627  | 13,280 | サービス業（他に分類されない） | 503    | 4,792  |
| 金 融 ・ 保 険 業   | 119    | 1,261  |                 |        |        |

令和3年経済センサスより筆者作成

その成長産業の取組も 2021 年から本格的に進み、次の表に示す成果が表れている。

|        |                                                                         |
|--------|-------------------------------------------------------------------------|
| 2022 年 | 1. 株式会社 New Space Intelligence<br>【プロジェクト名】衛星データパイプラインを用いたサービス開発および海外展開 |
| 2023 年 | 1. ヘリックスエクステンション株式会社<br>【プロジェクト名】RNA ワクチンを含む核酸医薬実用化のための高度な核酸製造技術の事業化    |
|        | 2. 株式会社スペース・バイオ・ラボラトリーズ<br>【プロジェクト名】脳梗塞の再生医療とリハビリテーションの統合に向けた体制構築       |

市産業経済部成長産業創出課

## 【宇部市の取組】

「宇部市成長産業推進協議会」を設置して、成長産業分野での取組を支援するプラットフォームを整備し、医療産業、宇宙産業やDX産業等の成長産業に力を入れ起業や誘致に取り組んでいる。

医療産業においては大学のシーズから市場性のあるものを厳選しビジネス化へと取組を行っている。

宇宙産業は宇宙データの活用やモノづくりでビジネス展開をしている企業もあり、新たにスタートアップ支援によりデータ活用のベンチャーが誕生している。

## 【課題】

成長産業の取組の情報発信力が弱く市外はもとより市内にも伝わっていない。そのため、若者へ魅力あるメッセージが伝わらず地元への興味が薄くなる。

成長産業の取組と情報発信を更に強化し活発にアクションを起こしていく必要がある。

分野や業種等を絞り込み、本市ではこの取組ではどこにも負けないメッセージを出し、将来に向けての方向性を整理し企業誘致やスタートアップ支援に取り組むと共に、オープンイノベーションの積極的なフォローで地元企業の魅力アップやビジネスの可能性につなげることが重要である。

これからは社会課題解決への新たなビジネスモデルも重要となる。

情報収集（例：国内外の経済市場の動向、本市の経済活動の資源の発掘、人材の創出の強み等）や行動体制を強化するため、専門のプロジェクトチームをつくりスピード対応できる組織を編成する必要がある。

## 4 提言

### 施策1「移住・定住」

#### 【事業名】宇部市ラブラブ住民票

#### 【趣 旨】

本市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」には基本目標として、「関係人口を増やし、新しいひとの流れをつくる」ことが掲げられている。しかし、ここに掲げられている施策は、定住に向けた移住対策や関係を構築するためのPRなど、関係人口の施策としては弱いものである。

さて、「かつて住んでいた」、「親類や知人が住んでいる」、あるいは「以前旅行で訪れてよかった」など、今住んでいるまちとは別のまちに魅力や愛着を持つという人たちがいる。

本市に「かつて住んでいた」人たちが、引き続き情報等を提供されることによって、本市への魅力や愛着を持ち続け、「関係人口」としてつながり続けることで、将来、本市へのUターンなどにつなげる。

#### 【具体策】

- 1 本市に住民票があった者で、高校、大学、大学院等を卒業し、市外へ進学、あるいは就職するために、住民票を市外へ異動する者の中で、希望する者へ「宇部市ラブラブ住民票」を交付する。
- 2 交付した者へは定期的に、市広報や移住定住につながる助成金・補助金などの市の情報をメール等で送付する。

## 【事業名】 政府機関の地方への移転・分散化を国に要望

### 【趣 旨】

移住・定住施策は全国どこでもやっていて綱引きをやっている状況であり、ほとんどのところが数字的には人口増の大きな要因になっていない。

地方からできることは限られており、地方の人口減少は、地方だけでは解決できないという視点に立って提案する。

内容は、省庁の分室もしくは政府機関を地方に移転・分散を要望するもので、大震災等による東京の機能不全を想定し、国の危機管理力を高め地方で危機管理政府機能ができるようにする。併せて、東京の一極集中の解消を可能とする。

また、省庁等の移転・分散に伴い、地方への関連企業等の移動も期待され、人口の増につながり地域の活性化にもつながる。

### 【具体策】

宇部市議会が内閣府に意見書を提出する。全国市議会議長会、全国市長会にも議案書を提出する。（議会から市長へ、国の政府機関の誘致の要望を提案する。）

## 【事業名】ノスタルジック音楽とアーバンスポーツ推進事業

### 【趣 旨】

毎週末に、ライブやアーバンスポーツで賑わう場所として、若者や中高年などが楽しめる野外ライブステージを市役所広場につくる。若者の出会いの場とする。

### 【具体策】

- 1 市役所2期棟の真締川側に、常設のステージと広場を設置する。週末のライブを民間が行う。音響や照明設備は公設とし、運営は民間に任せる。真締川周辺を若者でにぎわう地区にする。
- 2 アーバンスポーツを積極的に推進する。3 x 3バスケット、ハーフパイプ、スケートボードなどオリンピック競技可能な施設を造る。国内の大会が開けるようにする。
- 3 国際大会を想定した合宿所を造る。（公共施設の跡地等の利活用）

## 施策２「結婚」

### 【事業名】 出会いの場創出事業

#### 【趣 旨】

統計調査においても、結婚できない大きな理由として、結婚の意志があっても好きな人に出会えないことがあった。

本市においても、出会いの場創出イベントを実施しているが、更に様々な手法で結婚したい人同士が出会えるイベントを増やすとともに、結婚をサポートする体制を構築することが必要である。

#### 【具体策】

- 1 結婚を希望する人が出会える場を創出する。
  - ・定期的に結婚を希望する人が出会える機会を設ける。
  - ・都会(東京近郊)に住む結婚を希望する人との出会いの場を設ける。
    - 山口宇部空港があるという利点を生かし、出会い(お見合い)イベントを開催する。
    - 都会からの参加者の旅費・宿泊費を助成する。
    - 結婚し、市内に居住する場合は、住居として空き家等を安価で提供する。
- 2 結婚応援サポートセンターを設置する。
  - ・(仮称)うべし結婚応援サポートセンターを設置し、結婚を希望する人を支援する。
- 3 婚活イベント実施団体を支援する。
  - ・市民を対象にした婚活イベントを実施する団体等に補助金を支給する。

## 【事業名】結婚と出生数増加対策

### 【趣 旨】

これまでの少子化対策では結婚も出生数も増加してこなかった。この原因は、お金の問題だけではなく、若い世代の生き方や考え方が変わってきたことによると思われる。

若い世代は多忙な日々を追われ、プライベートの時間は自分のために使うことを重要視する傾向にある。そのため、若い世代は独身や既婚に限らず、男女のコミュニケーションをもつ機会が少なくなった。若い世代が、まずはカップル同士の時間を楽しみ、結婚・出産に対し、前向きになれることが肝要である。

そのためには社会全体が、若い男女に対してもっと寛容な社会をつくる必要がある。特に若い世代に対し、カップルになれるチャンスを増やす。

### 【具体策】

- 1 『カップルの日』を制定  
名称は『パートナーとの休日』、『ラブラブの日』でもよい。  
毎月の週末二回以上が望ましい。
- 2 市内事業者へのお願い  
カップルの日には、全ての企業は、独身や既婚に限らずカップルでデート予定のある者には残業をさせない。
- 3 市内店舗にお願い  
ラブラブで楽しめるような（周りに迷惑のかからない）カップル専用席を設ける。
- 4 本市にできること
  - ・カップルで映画や食事、宿泊の費用の一部を補助する。
  - ・カップル専用席協力事業者へ費用の一部を補助する。
  - ・若いカップルが楽しめるようなイベントの費用の一部を補助する。
  - ・週末に『キャンドルナイト』としてカップル（夫婦）の時間をつくるように普及啓発する。（毎月二回程度）

## 【事業名】結婚新生活支援事業

### 【趣 旨】

これから夫婦として新生活をスタートする世帯を対象に、結婚お祝い金、結婚に伴う新生活のスタートアップにかかる費用（家賃、引越費用等）、奨学金返済の支援を行い、結婚の後押しをする。

### 【具体策】

- 1 結婚お祝い金  
結婚し、市内に居住する意思がある場合に、お祝い金を支給する。
- 2 スタートアップ費用  
国の制度である、地域少子化対策重点推進交付金（結婚新生活支援事業・子ども家庭庁）を、本市でも活用する。  
・制度の対象外になる夫婦には、市独自で追加支援も行う。
- 3 奨学金返済支援  
奨学金返済中の場合に、上限 1 万円/月の返済補助を行う。年齢制限なし。  
市の返済支援を活用中も、併用可とする。

## 施策3「雇用・産業」

### 【事業名】企業誘致のための情報収集

#### 【趣 旨】

本市の人口（特に生産年齢人口）減少を止めるためには、雇用の増加が必要であり、そのためには新たな企業の誘致が必要である。また、新卒者の就職先として魅力のある企業がなければ、市外に就職することとなり、若者の人口減となる。

企業を誘致するには、企業に対して本市の情報発信と企業進出に関する早い情報収集が求められる。

まずは、現状において企業誘致に関する情報の質と量が十分かどうかを確認し、さらなる情報収集ができるような仕組みを検討する。同時に、企業に対する本市の空き地や工業用地の情報発信手法を確認し、より有効な情報発信方法を検討する。

つまり、企業が進出を考えているという情報をいち早くキャッチし、進出する企業のニーズを把握できるような確かな情報収集力が必要である。

#### 【具体策】

##### 1 市内企業へのアプローチ

市内の企業を訪問し、同業他社等の動向を聴取して、進出の可能性のある情報を収集する。

##### 2 情報収集・発信の現状調査

- ・本市の現状として、空き地や工業用地等の情報が市内企業に伝わっているか、認知度かどうかを検証する。
- ・地方への進出を検討している企業が本市に興味を持ってもらえるような本市の特徴や魅力をいま一度見直し、県内でもトップクラスの好条件を検討する。

## 【事業名】 若者の宇部市内での再就職支援事業

### 【趣 旨】

既存の地元企業の人材不足は企業の存続の危機を意味し、本市の将来にとって深刻な状況である。新産業の創出と同様に、地元企業の人材確保を支援する必要がある。

新卒者は数年で離職する割合が高い。大学卒のうち 6 割が本市に就職を希望しているが市内企業に就職している割合は半数に満たない。求人数は求職者数を上回っているものの、市内企業は新卒者を十分に採用できていない。

新卒者を市内企業に就職してもらうためのマッチングが重要であることは確かだが、若者の都会への願望や新規就職後の離職を止めることは困難である。

山口県内には、毎年 6 千人超の高校や大学を卒業予定の求職者がいる一方で、18 歳から 29 歳までのハローワーク求職登録者が常時約 1.5 万人いる。高卒の県内就職率は 8 割強、大学卒の県内就職者は 3 割に満たないことから、市外・県外にも再就職を希望する若者が相当数いることが予測される。

新卒者の就職の世話は、ほとんどが在学中の学校に限られていることから、離職者の多くがハローワークなどに頼っている状況である。ハローワークは市内の企業を優先して紹介するシステムではない。特に市外・県外の若者を市内の企業へ勧めるには、新たなシステムが必要だと考える。

また、市外・県外の若い世代が再就職を市内に求めた場合、簡単に求職情報を入手できることが望まれる。紹介する企業は、再就職希望者に、学校の紹介と同様に安心を与える必要が求められる。

若い世代の再就職を支援することで、結婚・出産の適齢期の人口を増やし、人口減少対策につなげる。

### 【具体策】

本市ウェブサイトにて、若者の再就職専用ページを開設する。

#### 1 大手転職支援サイト運営事業者との連携

- ・大手転職支援サイト運営事業者と連携協定を締結することで、地元事業者の雇用確保に向けた採用力の強化に取り組む。
- ・求人・求職者の開拓に関する情報発信のノウハウを持っている大手転職支援サイト運営事業者と本市が包括連携協定を締結する。
- ・協定を締結することで、地元事業者の採用ウェブサイト作成の支援や、当該大手転職支援サイトへの地元事業者の求人情報の掲載による求人情

報の発信力強化が期待される。

(参考)

既に 30 自治体が同様の協定を締結しており、山口県内でも萩市（2023 年 5 月）、柳井市（2024 年 1 月）が協定締結済み。

## 2 宇部市密着型再就職マッチング事業

市外・県外から本市に帰り、再就職を希望する人を対象に、登録された宇部市内の優良企業の求人とスカウトスタイルでマッチングする転職情報サービス  
(概要)

対象（求職者）市外・県外から本市に帰り、再就職を希望する人

（求人企業）本市の企業情報発信サイト「うべ企業情報ナビ」掲載企業  
（掲載企業は、本市独自の基準を満たし、再就職希望者が  
安心できること）

手法 ・「うべ企業情報ナビ」掲載企業から求人情報を募り、データベースを作成する。

・本市のウェブサイトの特設ページを作成し、市外・県外から本市に帰り、再就職を希望する人は求職者情報を登録する。（求職者情報…年齢、職歴、希望職種、現在の年収、希望年収、所有している資格等）

・登録された求職者情報をもとに、①「うべ企業情報ナビ」掲載の求人企業が直接登録者をスカウト、②本市の就職相談窓口である JOBSTA の相談員が条件にマッチする求人情報を求職者に提供、マンツーマンで支援する。

特色 ・求人企業は本市が運営・管理する企業情報発信サイト「うべ企業情報ナビ」に掲載された企業

・キャリアコンサルタントなどの資格を持つ JOBSTA の相談員が就職活動を支援する。

・JOBSTA ではウェブ相談も実施しており、市外・県外在住者も相談しやすい環境がある。

・JOBSTA では移住・定住に関する各種助成制度や空き家などの情報も提供している。

## 【事業名】 若者の転職支援に向けた大学等との連携事業

### 【趣 旨】

山口県内の大学や高等専門学校卒業生の県内就職率が高校や短期大学の卒業生に比べて著しく低いこと、学校を卒業後、就職したものの転職する 20 代が多いことは、宇部市の概況「雇用」において山口労働局のデータから明らかである。

そこで、山口大学工学部、宇部フロンティア大学、宇部工業高等専門学校の学生課と連携協定を締結し、卒業生から転職の相談を受けた際に、市内の事業者を紹介してもらう体制を構築する。

### 【具体策】

- 1 山口大学工学部、宇部フロンティア大学、宇部工業高等専門学校の学生課（就職支援担当）と連携協定を締結する。
- 2 協定の内容は、卒業生から大学等に転職の相談があった場合、JOBSTA と情報共有し、市内の事業者を紹介する。
- 3 求人情報は、「うべ企業情報ナビ」掲載企業から求人情報を募り、各大学等の学生課に提供する。
- 4 本人の希望する求人がない場合、雇用支援の部署と JOBSTA が中心となりハローワークと連携し、本人の希望に沿った転職先を開拓する。
- 5 学校に対し、企業の福利厚生の実施や働き方改革の推進、地元スポーツチームの協賛など、地元企業のいいイメージを積極的に働きかける。

## 【事業名】 企業誘致のための新たな操業用地の準備

### 【趣 旨】

新規の企業受入れのための操業用地を準備する。

### 【具体策】

既存の産業団地の残り区画がわずかとなったことから、2024 年度に実施している適地選定調査や企業モニター調査の結果を踏まえ、山口県と連携し、新たな操業用地の準備を進める。

## 【事業名】 成長産業推進みらいプロジェクト

### 【趣 旨】

若者の人口そのものが減少している中で、進学や就職で市外へ転出しているのも少なくない。そもそも地元の若者に魅力を感じさせることが出来ない現状であるため、外部の若者の転入やUターンに限界がある。

このことは働く魅力の希薄が結婚や定住にかなりの影響が有ると考えられる。

そのため若者が活躍でき挑戦したくなる強い魅力ある企業集積、企業誘致や起業等の取組を強化し、若者にとって魅力のある就労の場や自身の能力が発揮できる産業構造や魅力のある都市を構築することで若者の移住定住を目指す。

### 【具体策】

成長産業の創出に向けた取組を更に強化し活発にアクションを起こしていく。

分野や業種等を絞り込みほん市ではこの取組ではどこにも負けないメッセージが出せるよう方向性を整理し、企業誘致やスタートアップ支援に取り組む。併せてオープンイノベーションの積極的フォローで地元企業への魅力アップに繋げ、質の高い都市構造を築いていく。

そのために情報収集（例：国内外の経済市場の動向、本市の経済活動の資源の発掘、人材の創出の強み等）や大学、研究機関を核としてまちづくりを進めて、まちの強いビジョンと産・官・学・民の協力行動体制を強化するための専門のワーキングチームをつくり、スピード対応できる体制を構築する。

## 施策4「共通」

### 【事業名】プレミアム婚姻届

#### 【趣 旨】

結婚するカップルにとって婚姻届の提出は、記念すべき第一歩であるが、その行為をイベント化し、思い出に残るものとするためにプレミアム婚姻届の制度を新設し、手元に残る婚姻届として対外的にアピールする。

また、近隣他市からの関係人口、交流人口の創出につなげる。

プレミアム婚姻届には、市内の協力店を利用した際に特典を受けられる機能を付け、地元経済の活性化と市の魅力向上に寄与する。

LGBTのカップルもパートナーシップ制度の一環として利用可能とし、同様のサービスを受けられることとする。

#### 【具体策】

- 1 誰もが欲しがるような市独自のデザインのプレミアム婚姻届を作成、販売する。  
複写式で提出用と保管用に分かれ、提出後も手元に残る形にする。
- 2 プレミアム婚姻届を出したカップルは、市内の協力店から特典を受けられるようになり、地元の店を訪ねてもらうことで、本市の魅力を知ってもらう。
- 3 購入、提出、特典利用で少なくとも3回、本市に足を運ぶことになり、交流人口、関係人口の増加に寄与できる。
- 4 プレミアム婚姻届をLGBTのカップルにも利用してもらうことで、本市が個人の尊厳を尊重し、誰にとっても住みよいまちとして、広く認知されることが期待できる。

## 【事業名】 東京事務所の設置

### 【趣 旨】

今は情報化社会である。

移住・定住、結婚、雇用・産業の全てについて、いかに早く有力な情報を発信し、収集するかが大事である。

また、SNSでの情報発信・情報収集ではなく直接会って話をするすることで、信頼関係が構築できる等の効果がある。

そのために職員が最新情報の集まる都心に常駐し、様々な行事・イベント等に参加、また、官公庁・企業等を訪問する等して、あらゆる情報を発信・収集する。

その中で地方に移住・定住したい人には本市の魅力を伝えとともに地元企業を紹介し、結婚を希望する人には本市での婚活イベントへの参加をお願いする。

また、工場や事務所の設置(移転)を検討している企業等があれば本市への誘致を勧める。

さらに、本市職員の募集等も都心で行うことで、職員の確保と人口減少に歯止めをかけることにつながる。

### 【具体策】

東京事務所を設置して、職員を東京に常駐させる。



## おわりに

少子化の流れを食い止めることは並大抵のことではありません。

かつてフランスでは先進的な子育て支援政策が功を奏し、合計特殊出生率が先進国の中では高く、先進的な事例として世界から評価されていましたが、現在はそのフランスも合計特殊出生率が 2023 年には 1.68 まで下がっています。世界的に若い世代の考え方（生き方）が昔とは変わったというのが専門家の意見です。

人口減少も少子化の結果ですが、その流れを緩やかにする妙案はあるのではないかと考え、この特別委員会の議論は始まりました。

現在の日本は東京を除き全国の自治体が同様に人口減少という悩みを抱え、様々な子育て支援策や移住政策に取組、綱引き状態であるのではないのでしょうか。人口減少が確実なら、まるで椅子取りゲームの様相です。その東京も 2023 年の合計特殊出生率が 0.99 になった話は衝撃的でした。東京は今のところ転入超過が続いていますが、出生数の減少で将来的に人口減少が予測されています。

2023 年の一年間に生まれた日本人の子ども数は、72 万 7,277 人でした。

20 年後はこの影響が出てきます。日本の出生数が減っていることは、将来の日本人が絶滅危惧種となっていることが想像できます。この流れを変えることができないのであれば、せめて人口減少に対処できる政策に転換するか、国策を巻き込んだ大変革が求められます。

少子化による人口減少に対処するなら、コンパクトで持続可能な宇部市にすることです。具体的には例えば公共施設を減らすなどの政策が求められるでしょう。これは「宇部市公共施設等総合管理計画」で述べられていますからこの委員会での検討には含みませんでした。

この特別委員会では、人口減少の流れをできるだけ小さくする方策が議論されました。本市への移住政策は、即効薬となることが望ましいのですが、その政策は全国に勝つためのオリジナリティーが必要です。もっと検討すれば、この特別委員会の議論以外で別な妙案が見つかるかもしれません。

先のフランスから学ぶことは、若い世代の考え方を变える必要もあるでしょう。安心して子供を産める社会とはすなわち、子育てを終えた世代も安心して生活ができる社会です。人類はこれを繰り返して遺伝子を繋いできました。

議会としては、地方が生き残る可能性を求めるために変革を恐れず、この特別委員会の有無に関わらず、常に人口減少社会を前向きに考え、取り組んでいかなければならないと思います。

人口減少・少子化対策調査特別委員会

委 員 猶 克 実



# 資 料

## 人口減少・少子化対策調査特別委員会委員

|       | 氏 名   | 会 派           |
|-------|-------|---------------|
| 委 員 長 | 笠井 泰孝 | 清志会           |
| 副委員長  | 時田 洋輔 | 日本共産党宇部市議会議員団 |
| 委 員   | 射場 博義 | チーム創生         |
| 委 員   | 猶 克実  | 清志会           |
| 委 員   | 早野 敦  | 令心会           |
| 委 員   | 松岡 伸一 | 公明党宇部市議会議員団   |
| 委 員   | 三好 保雄 | 無所属           |
| 委 員   | 吉松 剛  | 誠和会           |



## 先進地視察報告書

【視察日及び視察先】2024 年 5 月 22 日（水） 東京都立川市

【視察項目】プレミアム婚姻届について

### 【概要】

若者世代（25～39 歳）の転出超過傾向を食い止めるため、同年齢層の職員によるワーキンググループよりアイデアを募り、交流人口の増加、市外在住者へのイメージアップを図る目的で取り組んだ。

婚姻届を提出したあとも手元に残したい、との意見から着想し、デザインや特典を検討し、予算化。2016 年に日本で初めてのプレミアム婚姻届の事業がスタートした。

1 部 1,000 円で販売。複写式で届書を提出後も手元に残すことができ、メッセージや記念日を記入する欄もあり、表紙には写真を飾ることができる。

市役所 1 階に特設コーナーがあり、プレミアム婚姻届を持った写真を撮ることができる。その写真を活用し、市内の協力店（40 店舗）で特典を利用できる。

購入、届出、特典利用で合計 3 回、立川市に足を運ぶ機会を構築している。

事業開始後はマスコミでも大きく取り上げられ、多くの他市で同様のサービスを展開してきたが、8 年が経ち継続して行っているところが減ってきた。

立川市が継続できている理由の一つとして、高いデザイン性がある。デザイン料に予算をかけたことで、長く親しまれる要因になったと考える。他市の多くは地元のキャラクターや風景などを使ったものが多く、その点でも差別化できている。

当初は発行予定数を大幅に上回り、開始 2 年は増刷して対応した。現在は減少傾向にある中で、昨年は民間と協力して PR に力を入れた結果、減少割合が食い止められたことから、PR の重要性を感じた。

特典利用についても、地元企業との相乗効果も狙える点で活性化に貢献できている。立川市にしかない魅力を届けたい。

立川市は、取組の方向性として結婚＝子ども、とは考えず、それぞれの政策を分けて考えており、いまの人たちの感覚に近い発想で取組を進めている。

## 【所感（意見・課題・本市への反映など）】

本市への反映について、今後の多様性社会を見据えて、幅広い利用方法を視野に入れての検討が必要と考える。

特典利用については、山口県が行っているハピちょるパスポートがあるが、地元企業と協力して市独自で行うことを検討すべき。

交流人口の増加、本市のPRやイメージアップに相当の効果がある事業と考える。

## 【主な質疑】

【問】販売価格は。

【答】デザイン料や製作費で、ほぼ利益はない。今後は値上げも検討している。デザインにしっかりと予算をかけたことで、長く続く事業になっている面もある。

【問】利用者の内訳は。

【答】8年の合計で、全体の婚姻届数のおおむね3割程度がプレミアム婚姻届を利用している。

【問】市外からの利用者は。

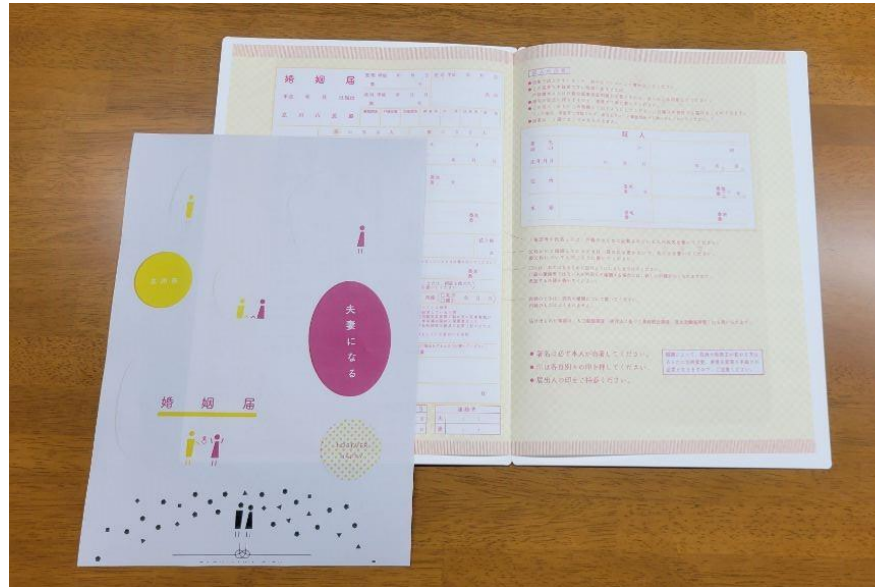
【答】プレミアム婚姻届を利用した届出のうち、約半数が市外在住者。

【問】特典の利用方法は。

【答】市役所1階に特設コーナーがあり、プレミアム婚姻届を持った写真を撮影し、市内の協力店（40店舗）でその写真を見せることで、婚姻届を提出後1年以内に、各店舗で1組1回の利用ができる。

【問】今後の課題は。

【答】8年を経て販売店や利用者数が減少してきた。10周年を目指してデザインや在り方について再検討している。昨年のPR活動で販売数の減少を食い止めることができたので、今後のPRについても検討していく。



プレミアム婚姻届



立川市役所 1 階の記念撮影用の特設コーナー

**【視察日及び視察先】2024 年 5 月 23 日（木）**

**柏の葉アーバンデザインセンター（千葉県柏市）**

**【視察項目】柏の葉国際キャンパスタウン構想について**

**【概要】**

最先端の知・産業・文化が育まれる国際学術研究都市、優れた自然環境と共生し、健康で高質の居住・就業環境が実現される次世代環境都市を実現させ、新たな文化や産業が生み出されるようなまちづくりを目指し、以下の 8 つの目標を立て持続可能な次世代都市づくりを行っている。

- 目標 1 環境と共生する田園都市づくり
- 目標 2 創造的な産業空間の醸成
- 目標 3 国際的な学術・教育・文化空間の形成
- 目標 4 サステイナブルな移動交通システム
- 目標 5 健康を育む柏の葉スタイルの創出
- 目標 6 公・民・学連携によるエリアマネジメントの実施
- 目標 7 質の高い都市空間のデザイン
- 目標 8 イノベーション・フィールド都市

**【所感（意見・課題・本市への反映など）】**

最初から新たな都市の青写真を描くことが出来るメリットがあり、その中にしっかりとした将来ビジョンのもと、まちづくりを行っていることが優れている。

持続可能な産業や都市構造を意識し、若い世代の心をつかむ取組が行われている。その結果、子育て世代の移住が多くなっている。

それに伴って、世代にあったコミュニティや都市構造の取組がなされて若々しいまちづくりとなっている。

数十年後の住人の状況にも対応できる取組も同時に考えながらのまちづくりも行っている。

本市との大きな違いは、都心のベッドタウンとしての機能があるということ。

しかし、大学や研究機関を核としてまちづくりを進めていることは、規模が違うが地域資源からいうと取組の方法によっては可能性があると考えられる。

しっかりとしたビジョンとコンセプトを持つことと、それらの継続性、公・民・

学の協力が重要であると感じる。

「目標 7 質の高い都市空間のデザイン」が一番まちの人气に寄与していると担当者は感じていた。

まちに緑が多いということと美化が進んで美しいということが印象的であった。

## 【主な質疑】

【問】当該プロジェクトの特色は（他の学術研究都市との違い）。

【答】柏の葉アーバンデザインセンター（UDCK）が取組を行っていること。  
街の中心に商業施設をつくるといった一般的な考え方でなく、大学、企業、ホテルや行政などが混在するような、いろいろな機能を盛り込むことを進めている街である。

【問】当該プロジェクトへの投資額及び市の予算は。

【答】1,100 億円で県と市で合計 125 億円、その他は国や保留地の売却益  
UDCK の運営に 2,000 万円/年

【問】スマートシティの取組によりまちがどのように変化したか。

【答】結果を示すことは難しいが健康研究所の取組で健康関係ではプラスの部分の影響が出ている。

【問】開発にあたって心掛けたことは。

【答】そのまちをしっかりとデザインする。目に見えるリアルな部分が必要。デジタルだけではだめ。

【問】イノベーション・フィールドの設置により産業構造がどのように変化したか。

【答】大学、企業やスタートアップの開発や研究段階の技術者の場所として利用される機会が増え、その事業者が集まりサービスの開発の支援などにつながっている。

【問】イノベーションフェスの取組内容と取組効果は。

【答】三井不動産が中心となって取り組んでいる。  
賞金 100 万円でこのまちを使ったテーマでアイデアコンテスト、ビジネスコンテスト等を行っている。

そのアイデアが、実際に住民の中でアプリとして実装されることにつながっている。

【問】 これらの取組によって柏の葉国際キャンパスタウンの人口バランスに変化はあったか。

【答】 ゼロからつくったまちは、人口が増えるだけなので、比較できない。結果的に子育て世代にマッチした。



柏の葉国際キャンパスタウンのエリアマップ



緑の多い街並み

## 【視察日及び視察先】2024 年 5 月 23 日（木）

下関市東京事務所（東京都千代田区）

## 【視察項目】東京事務所の設置について

### 【概要】

本市が設置運用する場合の経費等の参考にするために山口県内で唯一東京に事務所を置いている下関東京事務所（1951 年開設）を視察した。

- 1 場所：千代田区平河町日本都市センター12 階の 1 室  
本センターには、他県の中核市・政令市の事務所が多数入所している。
- 2 スタッフ：所長、職員、現地採用職員の 3 名
- 3 活動内容
  - （1）中央省庁及び諸機関と市のパイプ役
    - ① 市政発展のための迅速な情報・資料の入手  
・国から出る情報の前に早めに入手できる。
    - ② 円滑な要望活動のための調整  
・各省庁へ出す時の調整ができる。
  - （2）市の行政施策の円滑な推進のためのサポート
    - ① 在京の下関出身者や地元関連企業との連携
    - ② 市の P R 活動、事業の各方面への支援要請
  - （3）地の利を生かした活動
    - ① 在京での各種行事への参加、情報発信（在京同窓会、各種交流会及び研修会等）  
・市長の代理として東京事務所長が出席することもある。
    - ② 国際会議、イベント誘致等のための各国大使館や関係機関への訪問
    - ③ 地元求人情報の掲示や市職員採用案内の配付

### 4 経費（2022 年度歳出）

| 費 目  | 予算額（円）    | 決算額（円）    |          |
|------|-----------|-----------|----------|
| 報酬   | 2,393,000 | 2,316,960 | 会計年度任用職員 |
| 職員手当 | 456,000   | 388,860   | 職員 2 名分  |
| 共済費  | 480,000   | 447,256   |          |
| 旅費   | 1,025,000 | 854,819   |          |

| 費 目        | 予算額(円)     | 決算額(円)     |                              |
|------------|------------|------------|------------------------------|
| 交際費        | 60,000     | 0          |                              |
| 需用費        | 566,109    | 478,331    |                              |
| 役務費        | 760,000    | 664,104    |                              |
| 委託料        | 18,891     | 18,891     |                              |
| 使用料及び賃借料   | 16,237,000 | 16,100,567 | 事務所(都市センター)賃借料、<br>職員公舎借り上料等 |
| 負担金補助及び交付金 | 38,000     | 38,000     |                              |
| 計          | 22,034,000 | 21,307,788 |                              |

下関市資料により筆者作成

## 【所感（意見・課題・本市への反映など）】

### 1 下関事務所の課題

- ・ 所長、職員とも2年間の赴任中の限られた時間でどれだけ成果を残せるか。
- ・ 委託やイベント開催業務等の予算がない中で、どのように効率的にPRができるか。
- ・ 3人体制でマンパワーが少ない中、いかに庶務等の業務を効率化し別の業務ができる時間を増やせるか。

### 2 本市への反映

- ・ 名刺交換、対面でのつながりは効果がある。
- ・ 年間2,130万円の経費である。下関市と同様な形ではなく経費のかからない方法を工夫していく必要がある。

## 【主な質疑】

【問】 具体的にどのようなPRをしているか。

【答】 東京事務所ニュースの作成やFacebookやメルマガの発信や各種イベントの実施（2024年6月の中核市フェア、10月の瀬戸内フェア及び関門フェアを予定）、他部局業務の手伝いを通じたPR

【問】 移住・定住に関する取組をしているか。

【答】 ふるさと回帰センター（有楽町）や本庁の共創イノベーション課等と連携した移住・定住希望者への下関市情報や仕事情報提供等の支援及び各種イベントの実施並びに紙面・SNS等での情報発信に取り組んでいる。すべての活動が移住・定住につながっていく。

【問】 具体的な成果は。

【答】 2023 年 10 月の関門フェア（有楽町交通会館）

- ・ 移住セミナー 現地参加 28 名 オンライン 8 名
- ・ 6 階パネル展 300 名
- ・ ふるさと納税ブース来場者延べ 500 名
- ・ キッチンカーにて焼きカレー120 食

関門フェア終了後に 6 名が下関を訪問

2023 年 11 月の移住セミナー（渋谷）参加者 23 名

下関市に興味があるもしくは、移住を検討している人たちを対象に、有益な情報提供と意義深い交流の機会を提供できたとのこと。

【問】 東京で活動する成果をどのように評価しているか。

【答】 要望・陳情の円滑な実施

- ・ 中央官庁や諸機関との連絡及び有用情報の収集  
連絡を密にし、予算内示情報や市政関連情報を入手し、担当部局に伝達することにより、施策の推進に寄与する。
- ・ 市政関連情報の積極的な発信  
地元関連企業や首都圏同窓会等、下関市ゆかりの団体・個人との交流を深め、積極的に市政情報を発信することで市政への理解・協力を促す。

【問】 どのような方が訪ねて来られるか。

【答】 企業ではなく、ふるさと関係の方が多い。

【問】 よく訪問するところはどこか。

【答】 省庁・議員会館・移住関係のところが多い。



下関市東京事務所



日本都市センター12階のフロアマップ

**【視察日及び視察先】2024 年 5 月 24 日（金） 栃木県宇都宮市**

**【視察項目】ジャズのまちづくりについて**

**【概要】**

宇都宮市役所において、宇都宮市のジャズのまちづくりの取組について調査した。事前調査票に基づき、回答を得た後、個別の質問をした。

宇都宮市は世界的サックス奏者渡辺貞夫氏の出身地。

『うつのみやジャズのまち委員会』がアマ・プロ音楽家の生ライブを中心市街地で開催している。

小中学校の吹奏楽部にジャズ指導が実施され（全 6～8 回）ジャズの人材育成にも取り組んでいる。

宇都宮ジャズ協会には、2024 年 8 月時点で、ジャズバー、ジャズスポット、ライブハウス、レストラン、カフェ等 16 軒、ミュージシャンは 121 人が加盟・登録している。

調査日の前夜 『近代人』というライブハウスで、約 1 時間半、ジャズの店の体験をした。（全額自己負担）

**【所感（意見・課題・本市への反映など）】**

宇都宮市は、そもそもジャズで世界的に有名な渡辺貞夫氏の出身地であることから、ジャズをブランド化できる土壌があった。

人口が約 51 万人の地方の中核都市であり、商業的にもジャズなどミュージシャンの育つ要素がある。

宇都宮市が渡辺貞夫氏のジャズと餃子の都市ブランドを生かして街のにぎわいにつなげていることは、本市のブランドを生かした街づくりをする上で参考になった。

ときわ公園のビエンナーレなど、本市で開催するイベントで、ジャズに限らず音楽とコラボレーションすれば活気が出るのではと思う。音楽から生まれるエネルギーを見習いたい。

音楽の種類に関しては本市独特のテーマを見つけるべきだと思う。

## 【主な質疑】

【問】 事業費は。

【答】 市の補助金は1,444千円である。その他、セミナーの参加費やジャズライブの開催負担金、チケット代、書籍にかかる協賛金などを含む総事業費は、2023年度は5,326千円（2022年度は2,250千円）

【問】 国際大会は開催しているのか。

【答】 していない。

【問】 課題は。

【答】 ビッグバンドなどは多人数のため、練習会場の確保に課題。

【問】 若い人たちの反応は。

【答】 それなりに受け入れられていると思う。



各種ジャズイベントのパンフレット



毎夜、市内の専門店でジャズの生演奏が行われている



